

平成 27 年度刊行 埋蔵文化財発掘調査報告書 要約

金沢市文化財紀要 303					
『玉川町遺跡』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
玉川町	集落跡	弥生末～ 古墳初頭	土坑 溝	土器	
	城下町	近世	土坑 溝	陶磁器 土器	
要 約					
<p>用地転売に伴い実施した玉川町遺跡の発掘調査報告。弥生時代末～古墳時代初頭の集落跡と江戸時代の城下町（武家地）の 2 時期が主体となる。前者は土坑、溝などが検出され、調査区南側では包含層の堆積が見られた。後者は土坑、溝などが検出され、特に東西方向の溝 SD05 は屋敷地の境界溝の可能性がある。</p>					

金沢市文化財紀要 304					
『畝田・寺中遺跡Ⅺ ー木曳野遺跡群Ⅹー』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
畝田・寺中	集落跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 中世	河川跡 溝	土師器 須恵器 陶磁器 木製品 石製品	河川跡より弥生時代から中世までの土器、石器、木製品が出土。
要 約					
<p>土地区画整理事業に先立って実施した畝田・寺中遺跡の平成 16 年度調査の一部についての発掘調査報告。調査区の大部分は河川跡に該当し、弥生時代後期から古墳時代の土器、陶磁器、木製品が出土。河川跡下層からは白玉、勾玉、ガラス玉がまとめて出土。</p>					

『大友 A 遺跡・大友 D 遺跡・大友 F 遺跡・大友 G 遺跡 ー大友遺跡群ー』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大友 A	集落跡	弥生、古墳、奈良・平安	掘立柱建物 竪穴系建物 柵列 溝 土坑	弥生土器、土師器、須恵器、石製品、木製品	古墳時代前期の準構造船部材・舟形木製品が出土。

要 約

区画整理事業に先立って実施した大友 A 遺跡の発掘調査報告。SR37 の中央付近で、堰状の施設と考えられる杭列が確認されている。人為的に流量を調節するための治水遺構として注目されるほか、同一遺構 SR03 では整備された杭列をもつ水場遺構が検出され、その足場として準構造船の部材が転用されていた。金沢市内では 2 例目となる。当地に高い造船技術をもった集団がいたことを示すほか、遺跡周辺では船による物資の流通が行われるなど水上交通の面でも重要な場所であったと推定できる。この一連の流路からは舟形木製品が 3 点出土しているほか、準構造船を模した舟形土製品が 1 点出土していることも興味深い。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大友 D	集落跡	弥生	掘立柱建物 方形周溝墓 井戸 土坑 溝	弥生土器、須恵器、石製品、木製品、管玉	弥生後期～終末期の方形周溝墓を 3 基確認。周溝から管玉 31 点がまとまって出土。

要 約

区画整理事業に先がけて実施した大友 D 遺跡の発掘調査報告。方形周溝墓は 3 基検出されており、溝内の出土遺物から SZ01 が弥生時代後期～終末期、SZ02・SZ13 は弥生時代終末期に比定される。時期差はほとんどないと考えられるが、造墓は東→西へと行われているようである。SZ13 の東溝 (SZ13-E) からは供献されたと考えられる管玉 31 点が出土している。SD03 はその規模と形状から方形周溝墓あるいは平地式建物の周溝である可能性が高い。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大友 F	集落跡	弥生、古墳、奈良・平安	掘立柱建物 竪穴系建物 方形区画溝 柵列 井戸 土坑 溝	弥生土器 土師器、須恵器、石製品、木製品 玉、玉作り関連遺物	1 辺 25m の古墳前期の方形区画溝を検出。管玉未製品、剝貫円盤、鏃形未製品など玉作り関連の遺物が出土。

要 約

区画整理事業に先がけて実施した大友 F 遺跡の発掘調査報告。弥生時代後期～古墳時代前期を主体とする。弥生時代後期～終末期では剥片を多量に出土した SP1049・SK03 を関連遺構にもつ竪穴系建物 SH01 を中心とした玉作りが行われていたと推察される。古墳時代の方形区画溝の中から屋根飾

りと考えられる特殊木製品、緑色凝灰岩の剥片及び玉類未製品が大量に出土している。大友 F 遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期にいたるまで大規模な玉作りが継続的に行われており、この時期の中心的な玉作り拠点のひとつといえよう。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大友 G	集落跡	弥生、古墳、奈良・平安	ピット、溝	弥生土器 土師器、須恵器、 石鏃、木製品	大友 A 遺跡と共通する溝を確認。大型石鏃が出土。

要 約

区画整理事業に先がけて実施した大友 G 遺跡の発掘調査報告。検出された弥生時代～古墳時代の溝 SD01・SD02 は、大友 A 遺跡で検出されている溝と同一のものと考えられる。平安時代では真北に軸をもつ溝が検出されており、該期の墨書土器 4 点が出土している。大友 A 遺跡の縁辺部と考えられる。

金沢市文化財紀要 305-2

『大友 E 遺跡 —大友遺跡群—』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大友 E	集落跡	弥生、古墳、奈良・平安 鎌倉、室町	掘立柱建物 40 棟 竪穴建物 5 棟 井戸 5 基 方形区画 2 基 方形周溝墓 4 基 土坑 区画溝	弥生土器 土師器、須恵器、 石製品、木製品、 石帯、人形、 漆紙文書	削平された古墳 2 基を確認。溝で区画された古代の祭祀空間を確認。出土した墨書土器は 1,000 点を超える。

要 約

区画整理事業に先だって実施した大友 E 遺跡の発掘調査報告。

弥生時代中期後半から始まる本遺跡は、集中して方形周溝墓を造成する墓域を調査区の中央付近に設定し、それを西側から取り囲むようにして竪穴建物、掘立柱建物が建ち並ぶ居住域が設定されていた。古墳時代は、市内において検出事例の少ない古墳時代中後期の遺跡であり、方墳 2 基を抱えた集落跡である。当該期集落の構成を考える一例となる。古代においては遺跡の北端に SD1001・2004 があり、当該期の遺物が出土する。SD1001 からは石製巡方が出土している。SD3002 からは大量の遺物が出土しており、1,000 点を超える墨書土器以外にも人形等の木製祭祀具、銅製の巡方、漆紙文書の付着した土器なども出土している。文書の内容は請求文書であり、この遺跡が物品の請求を受ける立場である公的管理施設であることの証明といえよう。中世段階においては、四方を溝で囲み、作業所のような施設を備えた館跡の可能性はある。

古代における大友 E 遺跡の性格は、「稻依」・「#」などの祭祀関係墨書、「田舎」施設の存在、役職「案主」墨書の存在と巡方などの公的遺物に加え、漆紙文書に記載された「申請」の文字から、農耕・生産に関する公的管理施設で、遺跡周辺を含めた比較的広範囲な土地を対象に定期的な(頻繁な)祭祀行為を行っていたことが想定される。